SONY®

3-875-096-**03**(1)

ワイヤレスステレオ
ヘッドセット

取扱説明書

DR-BT140Q/BT140QP

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に一度は、ACパワーアダプターのプラグ部とコンセントとの間にほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、ACパワーアダプターなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

➡ **❶ 電源を切る**
❷ ACパワーアダプターで充電中の場合は、コンセントから抜く
❸ ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

指定以外のACパワーアダプターを使わない

充電するときは、必ず指定のACパワーアダプターを使用してください。

破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

火の中に入れない

分解しない

故障や感電の原因となります。内部の点検および修理はソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご依頼ください。

火のそばや炎天下などで充電したり放置しない

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

- 運転中は本機および携帯電話を使用しない。
- 運転中に携帯電話の画面を注視しない。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所ではヘッドセットを使わないでください。

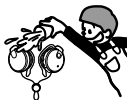
火災

感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**やけどや大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因になります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

禁止

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。

交流100 Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。

指示

雷が鳴りだしたら、ACパワーアダプターに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

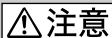
感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

禁止

次のページにつづく

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。耳を守るため、音量を上げすぎないようにご注意ください。
  ヘッドセットにつないでいるBluetooth機器によっては、通話時にハウリング現象がおきることがありますので、常に適度な音量を保つようにしてください。
- このヘッドセットは、音量を上げすぎると音が外に漏れます。音量を上げすぎてまわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドセットで聞くときは、いつも呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

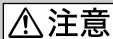
はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。

通電中のACパワーアダプターや製品に長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

かゆみなど違和感があったら使わない

ヘッドセットが肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して、医師またはソニーの相談窓口、またはお買い上げ店にご相談ください。

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

本機を航空機内で使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本機を医療機器の近くで使わない

電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。満員電車などの混雑した場所や医療機関の屋内では使わないでください。

本機を心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

本機を自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くでは使わない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

長時間使用しないときはACパワーアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。

お手入れの際、ACパワーアダプターを抜く

ACパワーアダプターを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

本機は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本機を使用した場合、罰せられることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険　充電式電池が液漏れしたとき

充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない
液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはソニーサービス窓口にご相談ください。
液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告　充電式電池について

- 指定されたACパワーアダプター以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光の当たるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。

⚠注意　日本国内での充電式電池の廃棄について

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。この充電式電池の取り外しはお客様自身では行わず、「ソニーの相談窓口」にご相談ください。
（「ソニーの相談窓口」の連絡先は裏表紙に記載されています。）

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

Bluetooth機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
- 本機を分解／改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.4000 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書（裏表紙）をご覧ください。

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG,INC.の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

Bluetooth無線技術について

Bluetooth®（ブルートゥース）無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使い方ですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。
無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。
Bluetooth規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBluetoothバージョンとプロファイルに対応しています。
ハンズフリー通話をするためには、携帯電話も下記のバージョンとプロファイル（HFPまたはHSPのどちらか）に対応している必要があります。

対応Bluetoothバージョン：
Bluetooth標準規格Ver. 2.0*1 ＋ EDR

対応Bluetoothプロファイル：
– A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
– AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）：再生、一時停止、停止、ボリューム調節など、AV機器を操作する。
– HSP（Headset Profile）*2：通話／携帯電話を操作する。
– HFP（Hands-free Profile）*2： ハンズフリーで通話／携帯電話を操作する。

*1 Enhanced Data Rateの略
*2 携帯電話のBluetooth機能が HFPとHSPの両方に対応している場合は、HFP（Hands-free Profile）を使用してください。

ご注意

- Bluetooth機能を使うには、相手Bluetooth機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- Bluetooth無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、ヘッドセット側での再生がわずかに遅れます。

こんなことができます

本機は、Bluetooth無線技術を利用したワイヤレスステレオヘッドセットです。

- Bluetooth対応音楽プレーヤー（携帯電話、デジタルミュージックプレーヤー、Bluetoothトランスミッターを接続したデジタルミュージックプレーヤーなど）*[1]の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。
- Bluetooth対応携帯電話*[2]をカバンの中に入れたまま、ハンズフリーで通話ができます。
- SCMS-Tに対応しており、ワンセグ音声もワイヤレスで楽しめます。
- Bluetooth対応音楽プレーヤー*[3]の基本的なリモコン操作（再生・停止など）ができます。
- 周囲の電波の影響による音切れが発生しにくいBluetooth標準規格 Ver. 2.0 + EDR*[4]

Bluetooth無線技術については10ページをご覧ください。

*[1] 接続するBluetooth機器がA2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。

*[2] 接続するBluetooth機器がHSP (Headset Profile) またはHFP (Hands-free Profile) に対応している必要があります。

*[3] 接続するBluetooth機器がAVRCP (Audio Video Remote Control Profile) に対応している必要があります。

*[4] Enhanced Data Rateの略

Bluetooth機器基本操作の流れ

ペアリングする

音楽送信に対応したBluetooth機器と本機を、接続相手として登録します。一度ペアリングすれば、次回からペアリングする必要はありません。

Bluetooth対応
携帯電話など

ワイヤレスステレオ
ヘッドセット

ペアリング

→ 16〜17ページ

音楽を聞く　　通話する

Bluetooth接続する

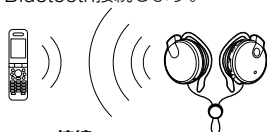
Bluetooth機器を操作して、Bluetooth接続します。

接続

A2DP　AVRCP

→ 20ページ

Bluetooth接続する

本機の電源を入れると、自動的にペアリングした携帯電話とBluetooth接続します。

接続

HFP　HSP

→ 23〜24ページ

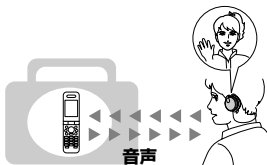
音楽を聞く

Bluetooth機器で再生する音楽を本機で聞くことができます。音楽の再生、一時停止または停止などを、本機で操作できます。

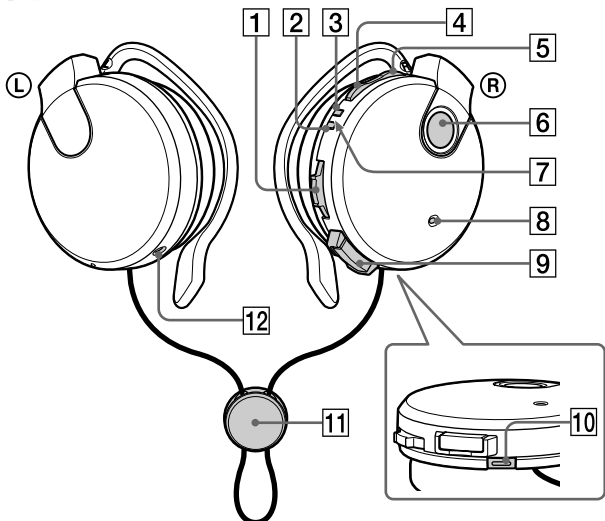
音楽

→ 20〜22ページ

通話する

本機を操作して電話をかけたり、受けたりできます。

音声

→ 23〜26ページ

各部のなまえと働き

1 **ジョグスイッチ**
本機で音楽を聞くとき、さまざまな機能を操作します。

2 **ランプ（赤）**
本機の電源状態を表示します。

3 **ランプ（青）**
本機の通信状態を表示します。

4 **VOL（ボリューム）（音量）–ボタン**

5 **VOL（ボリューム）（音量）+ボタン***1

6 **POWER（パワー）（電源）ボタン**

7 **RESET（リセット）ボタン***2
本機が動作しなくなったときに押します。ペアリング情報は保持されます。

8 **マイク**

9 **マルチファンクションボタン**
本機で通話するとき、さまざまな機能を操作します。

10 **PAIRING（ペアリング）ボタン**

11 **コードスライダー**
本機のネックコードを調節するときに使います。

12 **DC IN 3 V（ディーシーイン）端子**

*1 このボタンには凸点（突起）がついています。

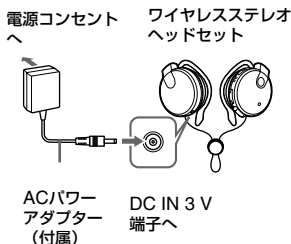
*2 このボタンはイヤーパッド側にあります。詳しくは30ページをご覧ください。

本機を充電する

本機はリチウムイオン充電式電池を内蔵しています。充電してからお使いください。

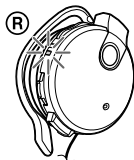
1 付属のACパワーアダプターを、本機のDC IN 3 V端子に接続する。

ACパワーアダプター（付属）

DC IN 3 V端子へ

ACパワーアダプターを電源コンセントへ差し込むと、充電が始まります。

ヒント

- 本機の電源が入っているときにACパワーアダプターを電源コンセントにつなぐと、本機の電源は自動的に切れます。
- 充電中は本機の電源を入れることができません。
- 充電中はペアリングができません。ペアリングは充電後に行なってください。

2 本機のランプ（赤）が、点灯していることを確認する。

充電は、約2.5時間*で完了し、ランプ（赤）は自動的に消灯します。

* 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間

ご注意

本機を長期間お使いにならなかった後に充電を行なった場合、ACパワーアダプターを繋いでも本機のランプ（赤）がすぐに点灯しない場合があります。本機からACパワーアダプターを外さず、ランプ（赤）点灯するまでしばらくお待ちください。

警告

本機は以下の原因などにより、充電中に異常を検知すると、充電が完了していなくてもランプ（赤）が消灯することがあります。

– 動作保証温度範囲（0 ℃～45 ℃）を超える場合

– 充電式電池に問題がある場合

この場合、もう一度上記の温度範囲で充電を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

ご注意

- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電できるようになります。
- 使用可能時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、充電式電池の寿命と考えられます。充電式電池の交換については、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。
- 急激な温度変化や、直射日光、霧、砂、ほこりや電気的な衝撃を避けてください。また駐車中の車内には、絶対に放置しないでください。
- 付属のACパワーアダプターは本機専用です。他のACパワーアダプターは使用しないでください。

使用可能時間*

本機の状態	使用可能時間
連続通信（音楽再生時間を含む	最大12時間
連続待ち受け	最大200時間

* 周囲の温度や使用状態により、上記の使用可能時間と異なる場合があります。

充電式電池の残量を確認する

本機の電源が入っているときにPOWERボタンを押すと、ランプ（赤）が点滅します。ランプ（赤）が点滅した回数で、充電式電池の残量を確認できます。

ランプ（赤）	電池残量
3 回点滅	満
2 回点滅	中
1 回点滅	減　（要充電）

ご注意

本機の電源を入れた直後やペアリングを行っているときは、充電式電池の残量を確認することができません。

残量がほとんどなくなると

ランプ（赤）が自動的にゆっくり点滅します。充電式電池の残量が完全になくなると、ビープ音が鳴り、本機の電源が自動的に切れます。

ペアリングする

ペアリングとは

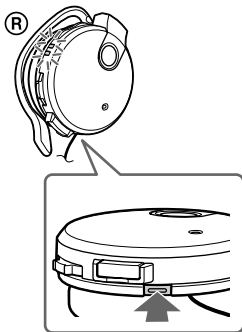
Bluetooth機器では、あらかじめ、接続しようとする機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。
一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

- 修理を行ったなど、ペアリング情報が消去されてしまったとき。
- 9台以上の機器をペアリングしたとき。
  本機は8台までの機器をペアリングすることができます。8台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、8台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき。
- 本機を初期化したとき。（33ページ参照）
  すべてのペアリング情報が消去されます。

ペアリングの手順

1 相手側Bluetooth機器を、本機の1 m以内に置く。

2 PAIRING（ペアリング）ボタンを2秒以上押し続け、ペアリングモードにする。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に点滅し、ペアリングモードに入ります。

ご注意

5分以内にペアリングを完了しなかった場合、本機のペアリングモードは解除され、電源が切れます。この場合、もう一度手順1から操作を行ってください。

3 相手側Bluetooth機器でペアリング操作を行い、本機を検索する。

相手側Bluetooth機器の画面に、検出した機器の一覧が表示されます。本機は「DR-BT140Q」と表示されます。
「DR-BT140Q」と画面に表示されない場合は、もう一度手順**1**から操作を行ってください。

ご注意

- 相手側Bluetooth機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 検出した機器の一覧が表示できないBluetooth機器や、画面がない機器とペアリングするときは、本機と相手側Bluetooth機器の両方をペアリングモードにしてください。相手側Bluetooth機器によってはこの操作でペアリングできる場合があります。
  このとき相手側Bluetooth機器のパスワードが「0000」以外に設定されていると、本機とペアリングすることができません。

4 相手側Bluetooth機器の画面に表示されている「DR-BT140Q」を選択する。

5 相手側Bluetooth機器の画面でパスコード* の入力を要求されたら、「0000」を入力する。

ランプ（青）がゆっくりした点滅に変わったら、ペアリングの完了です。このとき、相手側Bluetooth機器の画面によっては「登録完了」などと表示されます。

* パスコードは、パスキー、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。

6 相手側Bluetooth機器でBluetooth接続操作を行う。

本機が相手側Bluetooth機器を最後に接続した機器として記憶します。
また、相手側Bluetooth機器によっては、ペアリングが完了すると自動的に本機とBluetooth接続した状態になる場合があります。

ヒント

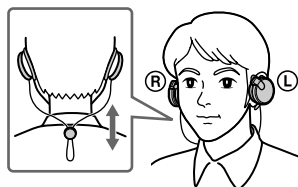
- 複数のBluetooth機器とペアリングするには、ペアリングしたい機器ごとに手順**1**～**5**を繰り返してください。
- 本機とペアリングしたBluetooth機器の情報をすべて削除するには、「本機を初期化する」（33ページ）をご覧ください。

本機を装着する

1 耳掛け部（ハンガー）の先端を耳の付け根に差し込み、そのまま耳の後ろに沿わせて回し込む。

Ⓡの印のついた方を右耳に、Ⓛの印のついた方を左耳に付けてください。

2 ネックコードを調節する。

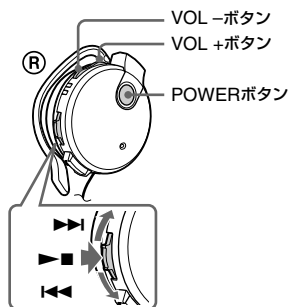
コードスライダーを使って、コードを調節してください。

ヒント

使用後にコードスライダーを使って、本機を束ねることができます。

Bluetooth機能のランプ表示

B :ランプ（青）
R :ランプ（赤）

状態			点滅パターン
ペアリング	機器検索中	B	● – ● – ● – ● – ● – ● – ● – ● – …
		R	● – ● – ● – ● – ● – ● – ● – ● – …
接続動作	接続待ち	B	● – – ● – – ● – – ● – – ● – – ● …
		R	–
	接続動作中	B	● – – ● – – ● – – ● – – ● – – ● …
		R	● – – ● – – ● – – ● – – ● – – ● …
接続済み	HFP/HSPまたはA2DPの接続（非通話時または非音楽再生時）	B	● – – – – – – – – – ● – – – – – …
		R	–
	HFP/HSPとA2DPの同時接続（非通話時または非音楽再生時）	B	● – ● – – – – – – – ● – ● – – – …
		R	–
音楽	再生時	B	●● – – – – – – – – ●● – – – – …
		R	–
	再生時（HFP／HSPで待ち受け中）	B	●●● – – – – – – – ●●● – – – …
		R	–
通話	着信中	B	●●●●●● …
		R	–
	通話中	B	●● – – – – – – – – ●● – – – – …
		R	–
	音楽再生中の通話	B	●●● – – – – – – – ●●● – – – …
		R	–

音楽を聞く

本機はSCMS-T方式のコンテンツ保護に対応しています。SCMS-T方式対応の携帯電話やワンセグTVなどの音楽（または音声）を、本機で聞くことができます。
機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 送信側Bluetooth機器の電源が入っている。
– 本機と送信側Bluetooth機器のペアリングが完了している。
– 送信側Bluetooth機器が音楽送信機能に対応している（プロファイル：A2DP*）。

1 本機の電源が切れている状態で、POWERボタンを約2秒間押し続ける。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に2回点滅し、電源が入ります。

ご注意

電源を入れたあと、本機は前回接続したBluetooth機器にHFPまたはHSPで自動的に接続しようとします。本機で通話をしない場合は、前回接続したBluetooth機器をHFPまたはHSPの接続待ち状態にしないでください。音楽再生中に通話もする場合は、26ページをご覧ください。

2 送信側Bluetooth機器でBluetooth接続操作を行う（A2DP）。

送信側Bluetooth機器の操作については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 送信側Bluetooth機器の再生を始める。

ヒント

ジョグスイッチを押して、本機から送信側Bluetooth機器へA2DPのBluetooth接続をすることもできます。ただし、本機で通話をしているときは、ジョグスイッチを押してもA2DPのBluetooth接続はできません。

ご注意

- 本機と送信側Bluetooth機器を、HSPでBluetooth接続して音楽を再生した場合、本機で高音質の音楽を聞くことができません。送信側Bluetooth機器を操作して、A2DPのBluetooth接続に切り換えてください。
- A2DPのBluetooth接続中に本機の電源を切ったあと、再度A2DPのBluetooth接続を行う場合は、もう一度手順**1**から操作を行ってください。

* プロファイルについて詳しくは、10ページをご覧ください。

音量を調節するには

音楽を再生しているときに、VOL + / –ボタンを押します。

ヒント

- 送信側Bluetooth機器によっては、接続した機器側でも音量の調節が必要な場合があります。
- 本機は、音楽を聞くときの音量と通話するときの音量を、それぞれ調整することができます。通話中に音量を変えても、音楽再生時の音量は変わりません。

使い終わるには

1 送信側Bluetooth機器を操作して、Bluetooth接続を切断する。

2 本機のPOWERボタンを約2秒間押し続ける。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に点灯し、本機の電源が切れます。

ヒント

送信側Bluetooth機器によっては、音楽の再生を終了すると、自動的にBluetooth接続を切断する場合があります。

送信側Bluetooth機器を操作する – AVRCP

送信側Bluetooth機器が機器操作機能（対応プロファイル：AVRCP）に対応している場合は、本機のボタンで、送信側Bluetooth機器の操作ができることがあります。

ご注意

送信側Bluetooth機器の対応機能については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご確認ください。

状態：停止中または一時停止中

	短押し	長押し
►■	①	②
⏮ / ⏭	③	④

① 再生を開始*1

② 停止

③ 曲戻し／曲送り

④ 早戻し／早送り*2

状態：再生中

	短押し	長押し
►■	⑤	⑥
⏮ / ⏭	⑦	⑧

⑤ 一時停止*1

⑥ 停止

⑦ 曲戻し／曲送り

⑧ 早戻し／早送り*2

*1 送信側Bluetooth機器によっては、ジョグスイッチを2回押す必要があります。

*2 送信側Bluetooth機器によっては、操作に対応していない場合があります。

次のページにつづく

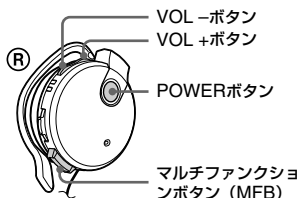
ヒント
送信側Bluetooth機器によっては、本機で下記の操作を行うことにより、早戻し／早送りが可能になる場合があります。

① 本機のPOWERボタンを約2秒間押し続け、電源を切る。

② 本機のPOWERボタンとジョグスイッチ（►■）を約7秒間押し続ける。ランプ（青）が1回点滅します。

なお、設定後に同じ操作を再度行うと、ランプ（青）が2回点滅し、この設定を解除できます。

ご注意
本機のVOL + / – ボタンで送信側Bluetooth機器の音量を調節することはできません。

通話する

機器の操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

– 携帯電話のBluetooth機能が有効になっている。

– 本機とBluetooth対応携帯電話のペアリングが完了している。

1 本機の電源が切れている状態で、POWERボタンを約2秒間押し続ける。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に2回点滅し、電源が入ります。電源が入ると、前回接続したBluetooth対応携帯電話へ自動的に接続します。

ヒント

自動接続を試みて1分間を過ぎると、接続動作が止まります。その場合は、マルチファンクションボタンを押すと、再度接続を試みます。

本機がBluetooth対応携帯電話へ自動的に接続しないときは

Bluetooth対応携帯電話を操作して接続する方法と、本機を操作して前回接続したBluetooth機器と接続する方法とがあります。

A Bluetooth対応携帯電話を操作して接続する場合

1 Bluetooth対応携帯電話でBluetooth接続操作を行う（HFPまたはHSP*）。

Bluetooth対応携帯電話の操作については、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。
検出した機器の一覧が、Bluetooth対応携帯電話の画面に表示されます。本機は「DR-BT140Q」と表示されます。
HFPとHSPの両方に対応したBluetooth対応携帯電話をご使用になるときは、HFPをご使用ください。

ご注意

前回と異なるBluetooth対応携帯電話へ接続するときは、上記の方法でBluetooth対応携帯電話を操作して接続してください。

* プロファイルについて詳しくは、10ページをご覧ください。

B 本機を操作して前回接続したBluetooth機器と接続する場合

1 マルチファンクションボタンを押す。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に点滅し始め、5秒間接続動作を行います。

ご注意

本機で音楽を聞いているときは、マルチファンクションボタンでBluetooth接続操作を行うことはできません。

電話をかけるには

1 お使いの携帯電話のボタンを操作して電話をかける。

本機から発信音が聞こえない場合は、マルチファンクションボタンを約2秒間押し続けます。

ヒント

携帯電話の機種によっては、下記のような方法で電話をかけることができます。詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

– 通話待ち受け中に、マルチファンクションボタンを押してボイスダイヤル機能を使って電話をかけることができます。
– マルチファンクションボタンを約2秒間押し続けて、直前の番号へ電話をかけ直すことができます。

電話を受けるには

着信があると、本機から着信音が聞こえます。

1 本機のマルチファンクションボタンを押して、電話を受ける。

本機から聞こえる着信音は、携帯電話によって以下のように異なります。

– 本機の着信音
– 携帯電話の着信音
– 携帯電話のBluetooth接続専用の着信音

ご注意

携帯電話のボタンを押して電話を受けた場合、機種によっては、携帯電話での通話が優先されることがあります。この場合、本機のマルチファンクションボタンを約2秒間押し続けるか、携帯電話を操作して、音声通信を本機に切り換えてください。携帯電話側での操作について詳しくは、お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

音量を調節するには

VOL + / –ボタンを押します。

ヒント

- 通話待ち受け中に音量を調節することはできません。
- 本機は、通話するときの音量と音楽を聞くときの音量を、それぞれ調整することができます。音楽再生中に音量を変えても、通話時の音量は変わりません。

電話を切るには

本機のマルチファンクションボタンを押して、通話を終了します。

使い終わるには

1 Bluetooth対応携帯電話を操作して、Bluetooth接続を切断する。

2 本機のPOWERボタンを約2秒間押し続ける。

ランプ（青）とランプ（赤）が同時に点灯し、電源が切れます。

Bluetooth対応携帯電話を操作する – HFP、HSP

携帯電話との接続には、HFPまたはHSPのどちらかが使用されます。どちらのプロファイルが使われるかは、携帯電話によって異なり、対応する機能も異なります。お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

HFP

状態	**マルチファンクションボタン**	
	短押し	長押し
待ち受け	ボイスダイヤル開始*1	リダイヤル
ボイスダイヤル中	ボイスダイヤル解除*1	–
発信中	発信中断	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え
着信中	応答	拒否
通話中	通話終了	通話機器を本機または携帯電話へ切り換え

HSP

状態	**マルチファンクションボタン**	
	短押し	長押し
待ち受け	–	発信*1
発信中	発信中断*1	発信中断または通話機器を本機へ切り換え*2
着信中	応答	–
通話中	通話終了*3	通話機器を本機へ切り換え

*1 携帯電話の機種によっては、操作に対応していない場合があります。お使いの携帯電話に付属の取扱説明書をご覧ください。

*2 携帯電話の機種によって異なります。

*3 携帯電話本体で通話しているときは、操作に対応しない場合があります。

音楽再生中に通話をする

音楽再生中に通話をするには、A2DPだけではなくHFPまたはHSPでのBluetooth接続も必要です。例えば、Bluetooth対応音楽プレーヤーで音楽を再生中にBluetooth対応携帯電話で通話をしたいときは、本機とお使いの携帯電話がHFPまたはHSPでBluetooth接続されている必要があります。

次の手順で本機とお使いの機器をBluetooth接続しておきます。

1 「通話する」(23ページ)の手順に従って、本機とお使いの携帯電話をHFPまたはHSPでBluetooth接続する。

2 音楽を再生するBluetooth機器(音楽プレーヤーや携帯電話など)を操作して、A2DPで本機とBluetooth接続する。

音楽再生中に電話をかけるには

1 再生中に、マルチファンクションボタンを操作する（25ページ参照）。または、お使いの携帯電話を操作する。

本機から発信音が聞こえない場合は、マルチファンクションボタンを約2秒間押し続けます。

音楽再生中に電話を受けるには

着信があると音楽が一時停止し、本機から着信音が聞こえます。

1 マルチファンクションボタンを押して、通話を開始する。

通話が終了したら、マルチファンクションボタンを押します。本機が音楽再生に戻ります。

着信があっても本機から着信音が聞こえないときは

1 再生中の音楽を停止する。

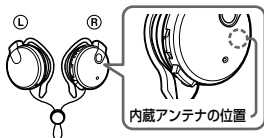
2 着信音が鳴ったら、マルチファンクションボタンを押して、通話を開始する。

本機を廃棄するときのご注意

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取り外しはお客様自身では行わず、「ソニーの相談窓口」にご相談ください。（「ソニーの相談窓口」の連絡先は裏表紙に記載されています。）

使用上のご注意

Bluetooth通信について

- Bluetooth無線技術ではおよそ10 m程度までの距離で通信できますが、障害物（人体、金属、壁など）や電波状態によって通信有効範囲は変動します。
- 本機のアンテナは、右ハウジングの下記図の点線で示した部分に内蔵されています。接続するBluetooth機器を右側に置くことで、Bluetooth通信の感度は向上します。
  接続する機器のアンテナ部と、本機内蔵アンテナ部分との間に障害物などがある場合、通信距離が短くなります。

- Bluetooth通信は以下の状況において、通信感度に影響を及ぼすことがあります。
  – 本機とBluetooth機器の間に人体や金属、壁などの障害物がある場合
  – 無線LANが構築されている場所や、電子レンジを使用中の周辺、その他電磁波が発生している場所など
- Bluetooth機器と無線LAN（IEEE802.11b/g）は同一周波数帯（2.4 GHz）を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。
  – 本機とBluetooth機器を接続するときは、無線LANから10 m以上離れたところで行う。
  – 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。
  – 本機とBluetooth機器をできるだけ近付ける。
- Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBluetooth機器の電源を切ってください。
  – 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
  – 自動ドアや火災報知機の近く
- 本機は、Bluetooth無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、設定内容などによってセキュリティが充分でない場合があります。Bluetooth通信を行う際はご注意ください。
- Bluetooth通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機はすべてのBluetooth機器とのBluetooth接続を保証するものではありません。
  – 接続するBluetooth機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。
  – 接続する機器が上記Bluetooth標準規格に適合していても、機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
  – ハンズフリー通話中、接続機器や通信環境により、雑音が入ることがあります。
- 接続する機器によっては、通信ができるようになるまで時間がかかることがあります。

付属のACパワーアダプターについて

- この製品には、付属のACパワーアダプター（極性統一形プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外の製品を使用すると、故障の原因になることがあります。

極性統一形プラグ

- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  – ACパワーアダプターを棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に置かないでください。
  – 火災や感電の危険をさけるために、水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶など、水の入ったものを置かないでください。
- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。

その他のご注意

- 湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所、直射日光の当たる場所や停車中の車内などには置かないでください。故障の原因となります。
- 携帯電話でご使用の際、電波状況、場所の影響により、ご使用できない場合があります。
- このヘッドセットは、力を加えたり重さを加えたりしたまま長時間放置すると、変形してしまうおそれがあります。保管するときは、変形しないようにしてください。
- 落としたりぶつけたりなどの強いショックを与えないでください。
- ユニット部はていねいに扱ってください。
- 汚れは、乾いた柔らかい布でふき取ってください。その際、ユニット部に息を吹きかけることはしないでください。
- イヤーパッドは長期の使用・保存により劣化するおそれがあります。
- ほかに疑問点や問題点がある場合は、もう一度この取扱説明書をよく読んでから、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にご相談ください。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、再度の点検と、ホームページのサポート情報を確認してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

共通

電源が入らない

➡ 本機を充電する。

➡ 充電中は電源を入れることができません。本機をACパワーアダプターからはずし、電源を入れる。

ペアリングできない

➡ 本機とBluetooth機器をなるべく近付けてからペアリングを行う。

Bluetooth接続ができない

➡ 本機の電源が入っているか確認する。

➡ 相手側Bluetooth機器の電源が入っていてBluetooth機能が有効になっていることを確認する。

➡ 本機に相手側Bluetooth機器との接続履歴が残っていない。ペアリングが完了したらすぐに、相手側Bluetooth機器でBluetooth接続を行う。

➡ 本機または相手側Bluetooth機器がスリープ状態になっている。

➡ Bluetooth接続が切断されている。もう一度Bluetooth接続を開始する。（音楽を聞く場合：20ページ参照、通話する場合：23ページ参照）

音がひずむ

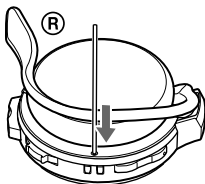
➡ 本機やBluetooth機器の周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。

通信距離が短い（音声が途切れる）

➡ 無線LANやほかのBluetooth機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使用する。

➡ 本機のアンテナ（28ページ参照）を相手側Bluetooth機器の方向に向け、その間を障害物で遮らないようにする。

本機を操作できない

➡ 本機をリセットする（この操作をしても、ペアリング情報は削除されません）。クリップなどの細い棒をRESETボタンの穴へ差し込み、ボタンの感触があるまで押す。

音楽を聞くとき

音が出ない

➡ 本機と送信側Bluetooth機器の電源が入っているか確認する。

➡ 本機と送信側Bluetooth機器が、A2DPでBluetooth接続されていない。A2DPでBluetooth接続をする。（20ページ参照）

➡ 送信側Bluetooth機器で、音楽が再生されているか確認する。

➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。

➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。

➡ 本機と送信側Bluetooth機器を再度ペアリングする。（16ページ参照）

音が小さい

➡ 本機の音量を上げる。

➡ 接続した機器側で音量を調節する必要がある場合は、接続した機器で音量を上げる。

音質が悪い

➡ 本機と送信側Bluetooth機器が、HSPでのBluetooth接続になっているときは、A2DPでのBluetooth接続に切り換える。

音楽再生中に音が途切れやすい

➡ Bluetooth機器から送信している音楽のビットレート設定と、ご使用環境との組み合わせによって、本機の受信状態が不安定になっている場合があります。*1
いったん送信側Bluetooth機器からA2DPのBluetooth接続を切り、本機の電源が入っている間にジョグスイッチ（►■）を約7秒間押し続けて、本機で受信できるビットレートの設定を下げる。*2

*1 ビットレートとは、1秒あたりのデータ伝送量を表す数値です。一般的にビットレートが高いほど、音質が良くなります。
本機は、高いビットレートで音楽を受信できますが、ご使用環境によっては音が途切れやすい場合があります。

*2 ビットレート設定の変更が完了すると、ランプ（青）が1回点滅します。
ご使用の環境によっては、上記の操作で音の途切れが改善されない場合もあります。設定をもとに戻すには、もう一度本機のジョグスイッチ（►■）を約7秒間押し続けます。このときランプ（青）が2回点滅します。

通話するとき

通話相手の声が聞こえない

➡ 本機とBluetooth対応携帯電話の電源が入っているか確認する。

➡ 本機とBluetooth対応携帯電話がBluetooth接続されていない。
HFP、もしくはHSPでBluetooth接続をする。（23ページ参照）

➡ Bluetooth対応携帯電話の音声設定が、通話中に本機を使うようになっているか確認する。

➡ 本機の音量が小さすぎないか確認する。

➡ Bluetooth対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。

➡ 本機で音楽を聞いているときは再生を停止して、本機のマルチファンクションボタンを押して着信に応答する。

通話相手からの声が小さい

➡ 本機の音量を上げる。

➡ Bluetooth対応携帯電話で音量を調節する必要がある場合は、音量を上げる。

本機を初期化する

音量調節などを工場出荷時の設定に戻し、すべてのペアリング情報を削除します。

1 本機の電源が入っている状態で、POWERボタンを2秒以上押し続けて本機の電源を切る。

2 POWERボタンとマルチファンクションボタンを同時に7秒以上押し続ける。
ランプ（青）とランプ（赤）が同時に4回点滅し、本機が工場出荷時の設定に戻ります。すべてのペアリング情報が削除されます。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではヘッドセットの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店または、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご相談ください。

主な仕様

概要

通信方式
Bluetooth標準規格Ver. 2.0＋EDR*[1]

出力
Bluetooth標準規格Power Class 2

最大通信距離
見通し距離約10 m*[2]

使用周波数帯域
2.4 GHz 帯（2.4000 GHz ～ 2.4835 GHz）

変調方式
FHSS

対応Bluetoothプロファイル*[3]
A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）、
AVRCP（Audio Video Remote Control Profile）、
HFP（Hands-free Profile）、
HSP（Headset Profile）

対応コーデック*[4]
SBC*[5]、MP3

対応コンテンツ保護
SCMS-T方式

伝送帯域（A2DP）
20 ～ 20,000 Hz （44.1 kHzサンプリング時）

付属品
ACパワーアダプター（1）
取扱説明書（本書）（1）
その他印刷物一式

*[1] Enhanced Data Rateの略
*[2] 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。
*[3] Bluetoothプロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
*[4] 音声圧縮変換方式のこと
*[5] Subband Codecの略

ヘッドセット

電源
DC 3.7 V：内蔵リチウムイオン充電式電池

質量
約53 g

レシーバー部

形式
オープンエアダイナミック型

ドライバーユニット
30 mm、ドーム型

再生周波数帯域
16 ～ 24,000 Hz

マイク部

型式
エレクトレットコンデンサー型

指向特性
全指向性

有効周波数帯域
100 ～ 4,000 Hz

許容動作温度
0 ～ 45 °C

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソニーの相談窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

ホームページで調べるには

➡ AV 関連商品・アクセサリー カスタマーサポートへ
（http://www.sony.co.jp/av-acc）
Bluetoothアクセサリー商品に関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

電話・FAX でのお問い合わせは

➡ ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX番号）
- お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

セット本体に関するご質問時：
- 型名：DR-BT140Q/DR-BT140QP
- 製造（シリアル）番号：左ハウジングのイヤーパッドをはずした内側のラベルに記載
- ご相談内容：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

接続に関するご質問時

質問の内容によっては、本機に接続される機器についてご質問させていただく場合があります。事前にわかる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥**0120-333-020**
携帯電話·PHS·一部のIP電話‥ **0466-31-2511**

修理相談窓口
フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥**0120-222-330**
携帯電話·PHS·一部のIP電話‥ **0466-31-2531**
※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「309」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 3 8 7 5 0 9 6 0 3 * (1)